

「拝啓 お母さん」

毎日、毎日、毎日、暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

そちらの世界が辛いことや、悲しいことのない楽しい世界であることをずっと願っています。

ねえ、お母さん。

私がたまに、本当にたまにだけど、学校のことや、部活であったことを報告しているのを聞いてくれる？

本当は会って聞いてほしいことや、一緒に考えたり悩んだりしてほしいことがたくさんあるんだよ。

でも、それはできないからメールを打ったりすることがあるんだ。

お母さんの携帯で。今は、私のだけだね。

本当は言わないでおこうと思ってたけれど

お母さんがお父さんに送った最後のメール、あれ、見ちゃったんだ。

「私、いつまで生きられるかな？」

いつも強気で堂々と自分の思う道を進んでたお母さんからは、

想像もできないようなメールだったのを今でも覚えているよ。

お父さんがあのメールに何て返信したのかは想像もつかないけれど、

少なくとも私は、言葉が出なかった。

あの後、家に帰ってからやっと「今日だったよ」ってそれだけ言えたんだ。

ねえ、お母さん。

あなたは、心も体も一番苦しいときに、私たちにたくさんのことを教えてくれてたんだね。

あの頃は、何であんなこと言われたり、させられたりしなきゃいけないのかって思ったけれど、

今こうして私たちがどうにかやっていけているのは、あなたのおかげです。

これから、迷ったり苦しいことはたくさんあると思うけれど、気が向いたら見守ってね。

今まで言えなかった「ありがとう」と、たくさん感謝を込めて。 敬具

あなたの娘より